

安全と標準・認証研究会準備会メモ

第2回準備会メモ(2002. 11. 8)

日時: 2002年11月8日午前9:30~12:30

場所: 日本機械学会(信濃町)会議室

出席者: 杉本(北九州市立大学)、坂(三菱総研)、中田(Open System Inc.)、柘平(TUV Rheinland Japan)、斎藤(産業安全研究所)、野口(三井造船)富士(IHI)、徳永(クボタ)、野口(Bureau Veritas、記)

議題: 認証研究会を進めるに当たり、認識を深める議論を継続

1. 今後の進め方について、BV 野口より添付資料で私案として説明、これについての議論は、もう少し認識を深める為の自由なディスカッションを行った後で議論する事にした。

- ・ 最近、Product Stewardship の考えが広まっている。ホームページ上に安全・環境を含め会社の倫理宣言をしている会社が多くなっている。
- ・ 化学業界は Responsible Care を108社で活動し、ホームページで紹介している。また、MSDS(Material Safety Data Sheet)を添付し販売している。技術側にデータがあるわけで、知らせる責任がある。労働安全は事業者には責任があり、製造者は使用者(事業者)に対して説明責任がある。
- ・ 今度、ISO12100が完全にJIS化されるので、A,B,C規格の考えから、JIS体系の見直しが必要となってくる。そうなれば国際規格として認められるだろう。
- ・ 安全が何たるかについて行政も知らなかった。プレス機械が年間3000件も事故があった中で、安全プレスとして作られた機器が4件事故を起こし、国会で大問題になった事がある。リスクの考え方が一般に知られていない。
- ・ 設備は、必ず新品から中古品になっていくわけで、成長するリスクについて考え方を整理する必要がある。
- ・ ユニセフがアフリカの国に日本のメーカーから建設機械を売って欲しいといった所、リスクが大きく直接売る事は責任が持てないので売れない、どこか経由であればという話があった。国によって許容レベルが異なる事も事実であり、簡単な問題ではない。
- ・ メンテナンスについては、昔はその製造者が行うのが普通であったが、低価格、より良いサービスを武器に何処のでも扱う業者が売上を伸ばしている。技術情報を隠す事が出来ない世の中になっている。エレベータのメンテナンスも半額でサービスしておりこれは規制緩和で出てきた話である。
- ・ 韓国でTGVが採用されたのは危険度分析が出来ていた事が大きな理由である。同じ幅のレールでヨーロッパの何処でも行ける長い歴史があったからである。
- ・ 設計情報開示と知的所有権の矛盾があるが、安全に関わる部分だけであり、欧米の機器は、最初から第三者による検査があるという前提で作られ、必要なところだけ開示するようになっている。
- ・ 使われ方に対するリスク解析も重要であり、本来意図されていない使われ方に対しての配慮が要求される。
- ・ その時代の技術水準をどう判断するか、難しい問題である。規格は全体で整合が取れているので、つまみ食いはいけなない。その意味では、翻訳JISは大変結構、また、規格が無いものについて、第3

者機関が判断する場合、その専門性レベルが問われる事になる。

- ・ 結局、役所は責任をとらない(とらせると話が進まない、とれない)、事業者の責任になってくる。
- ・ 機械学会で、機械技術者の視点で小冊子に纏める事は意義深いと思われる。製造者責任でなく、設計者責任に絞り、設計者原則をきちんと決めておきたい。
- ・ あるデータによると日本全体で検査認証に関わっている人口は70万人と言われているが、実際には欧米に比べ第3者機関は確実に少なくシステムとして改善すべき点は多い。
- ・ 説明責任は総務部の仕事ではない、技術に責任ある立場の人が行うべきもので、本来責任説明と訳すべきものである。
- ・ この会に、保険関係者を入れるべきと思う、個別に当たってみる。また、次回から第一回として案内し、再度、声をかける。

3. 今後は、月1回のペースでこの議論を進め、来年3月までに議論をまとめ、シンポジウムの形で発表したい。

4. 次回、12月17日(火)午前9:30から12:30まで、機械学会で開催

以上